



全労連青年部ニュース

YOUTH TOPIC

つながる・たたかう・支えあう青年部を

ホームページ<http://www.zenroren.gr.jp/jp/seinen/>ブログ<http://blogs.yahoo.co.jp/zenrourenpower>

就職連絡会中央行動



全労連青年部が構成団体として参加する「高校・大学生、青年の雇用と働くルールを求める連絡会」（就職連絡会）が11月28日、東京都内で雇用や就職環境の改善を求めて中央行動を行いました。衆院第1議員会館で決起集会を開き、厚生労働省、文部科学省などの関係省庁や経営者団体などに要請するなど終日行動しました。

決起集会では、日本民主青年同盟（民青）の宅田葉月副委員長があいさつ、昨年の安保法制（戦争法）で立ち上がった青年が、学費の値下げや給付制奨学金制度、~~や~~安心して雇用を求めて行動していることを紹介。「深刻な若者の実態を伝え、改善を求めると同時に、自分たちの権利として訴えていきたい」と語りました。

各地からの報告では、全国から参加した教職員や若者が発言しました。和歌山からの参加者は、県内の求人数、就職率は上がっているが、「地域や職種に偏りがある」と指摘。北海道からの参加者は、昨年高校生への戸別訪問も発覚した自衛隊のリクルート活動を告発し、「面談でも、親や生徒から『危険に巻き込まれないか不安』との声が出ている」と語りました。大学4年の男性は、就職活動や職場環境などについて「常に漠然とした不安がある。働く環境に希望を持てるようにしたい」と話しました。

各省庁などへの要請では、『雇用創出をはかるとともに、賃金・労働条件の改善を行う』『就職を希望するすべての高校生と大学生への就職支援を充実させる』『教育の無償化をはかるなど』を求めました。

全労連 奨学金アンケート

全労連青年部では、奨学金のアンケートに取り組むことを決めました。

大学学部生（昼間）の約50%が何らかの奨学金を利用し、約3人に1人が独立行政法人日本学生支援機構（以下、機構）の奨学金を借りるまでになっています。しかし、非正規雇用等の不安定・低賃金労働の拡大により、卒業後に安定した収入を得て奨学金を返済できる環境は大きく崩れています。機構の奨学金の3ヶ月以上の延滞者のうち46%の人が非正規労働者又は職がなく、83.4%が年収300万円以下です。

労働相談でも、「奨学金は借金でしょ、怖くて借りられません」と相談に来た大学生は、新聞奨学生として区内の販売所に住込みブラックな環境で仕事をやめると言ったら違約金請求、それでも学生ローンは手が出ないと訴えました。「借りたことでこんなに苦しい思いをするとは」と訴える20代の女性は、パワハラでうつになり退社、フルタイムの仕事に就けずに週3日のアルバイト収入は月7万円。奨学金の返還猶予期限が迫り、督促状が来たが返せる目途がないと訴えました。

今回改めて、奨学金を返済している人は返済額が月々の収入の何%を占め、どのくらいの負担になっているかを明らかにし、この取り組みに活かしていきたいと思います。是非ご協力をお願いします。

WEB版アンケート URL :

<http://www.smaster.jp/Sheet.aspx?SheetID=115646>

アンケート用紙ダウンロード

1P : http://www.zenroren.gr.jp/jp/seinen/html/menu03/index_1.jpg2P : http://www.zenroren.gr.jp/jp/seinen/html/menu03/index_2.jpg

QRコード



奨学金アンケート